



大山川改良事業に伴う発掘調査 青山神明遺跡 地元説明会 資料 令和6年 1月27日(土)

青山神明遺跡 空中撮影写真 全体図(南西より)

青山神明遺跡 令和5年度 発掘調査

愛知県埋蔵文化財センターでは中小河川改良事業(一級河川大山川)に伴い、愛知県建設局河川課の委託を受けて、令和5年6月より青山神明遺跡の発掘調査を進めてまいりました。青山神明遺跡は愛知県西春日井郡豊山町大字青山字神明地内にて周知されている遺跡で、弥生時代から江戸時代にかけての遺構と遺物が確認されています。

今回の調査では、神明公園の西側を3箇所にわけて調査を行い、23A区は令和5年6月から9月にかけて、23C区は令和5年10月から12月にかけて調査を行いました。今回の説明会では23Ba区の報告を行います。23A区と23C区の詳細は青山神明遺跡発掘だより1号・2号をご覧ください。



青山神明遺跡 23A 区
空中撮影写真(南上より)



青山神明遺跡 23C 区
空中撮影写真(西上より)

編集



公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
 愛知県埋蔵文化財センター
 HP <http://www.maibun.com>
 TEL: 0567-67-4163

調査支援



株式会社 アート
 愛知支店 〒462-0012
 愛知県名古屋市中区北1-1721
 TEL 090-6965-2991

An aerial photograph of the archaeological site of the Temple of Isis at Philae. The temple is a large, rectangular structure with a complex internal layout. Several square pillars or columns are visible, supporting the roof structure. The ground is a mix of brown earth and grey stone or concrete. A grid of walkways or roads is visible on the right side of the image, leading to the temple. The overall scene is a detailed view of an ancient Egyptian temple complex.

A large, dark, rectangular object, possibly a piece of ancient pottery or a small structure, lying on a sandy, textured surface. A shadow is cast to the right of the object.

A close-up photograph of a rock surface. A circular hole is visible on the left side. To its right, a small, light-colored, rectangular object, possibly a bone or stone, is embedded in the rock. The rock surface is dark and textured, with some lighter patches. A vertical crack runs down the right side of the image.

土坑 (720SK) 遺物出土状況
古墳時代後期の土師器の口縁が出土しました



柱穴 781SP 土層断面 (東より)
中央にある半円が柱の跡で、周りが掘方です

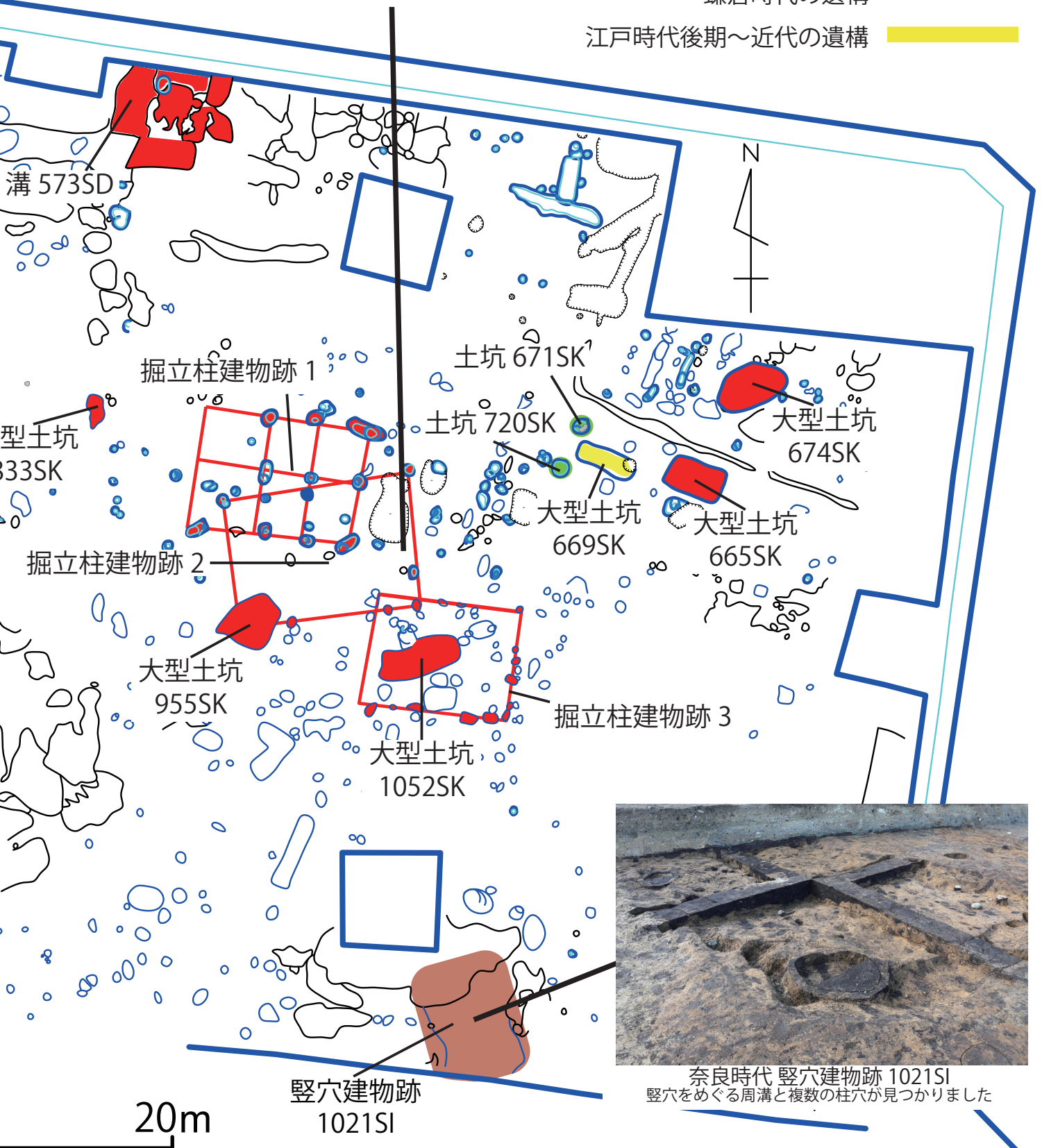
青山神明遺跡 遺構全体図 (23Ba 区)

古墳時代後期の遺構 ■

奈良時代の遺構 ■

鎌倉時代の遺構 ■

江戸時代後期～近代の遺構 ■



奈良時代 竪穴建物跡 1021SI
竪穴をめぐる周溝と複数の柱穴が見つかりました

青山神明遺跡 23Ba 区 概要

青山神明遺跡の 23Ba 区は、神明公園の西側にある地点で、昨年の 12 月より調査を実施してきました。確認できた遺構と出土遺物は古墳時代から江戸時代にかけてのものがありました。主な遺構には、古墳時代後期の土坑が 2 基、奈良時代の^{たてあな}縦穴建物跡が 1 棟、鎌倉時代の^{ほったて}掘立柱建物跡が 3 棟、溝が 3 条、江戸時代後期の^{どこう}土坑が 1 基ありました。その中で調査区南側にある縦穴建物跡 (1021SI) は奈良時代のもので東西 2.8m・南北 3.45m、平面形は^{すみまる}隅丸^{ちようほうけい}長方形で柱穴と^{しゆうこう}周溝が確認されました。掘立柱建物跡は調査区中央にあり、^{けたゆき}桁行 3 間、^{けん}梁間 2 間の^{はりま}東西棟の^{とうざいむね}総柱建物で、^{そうばしら}棟の^{たてもの}総柱建物で、鎌倉時代のものと考えられます。

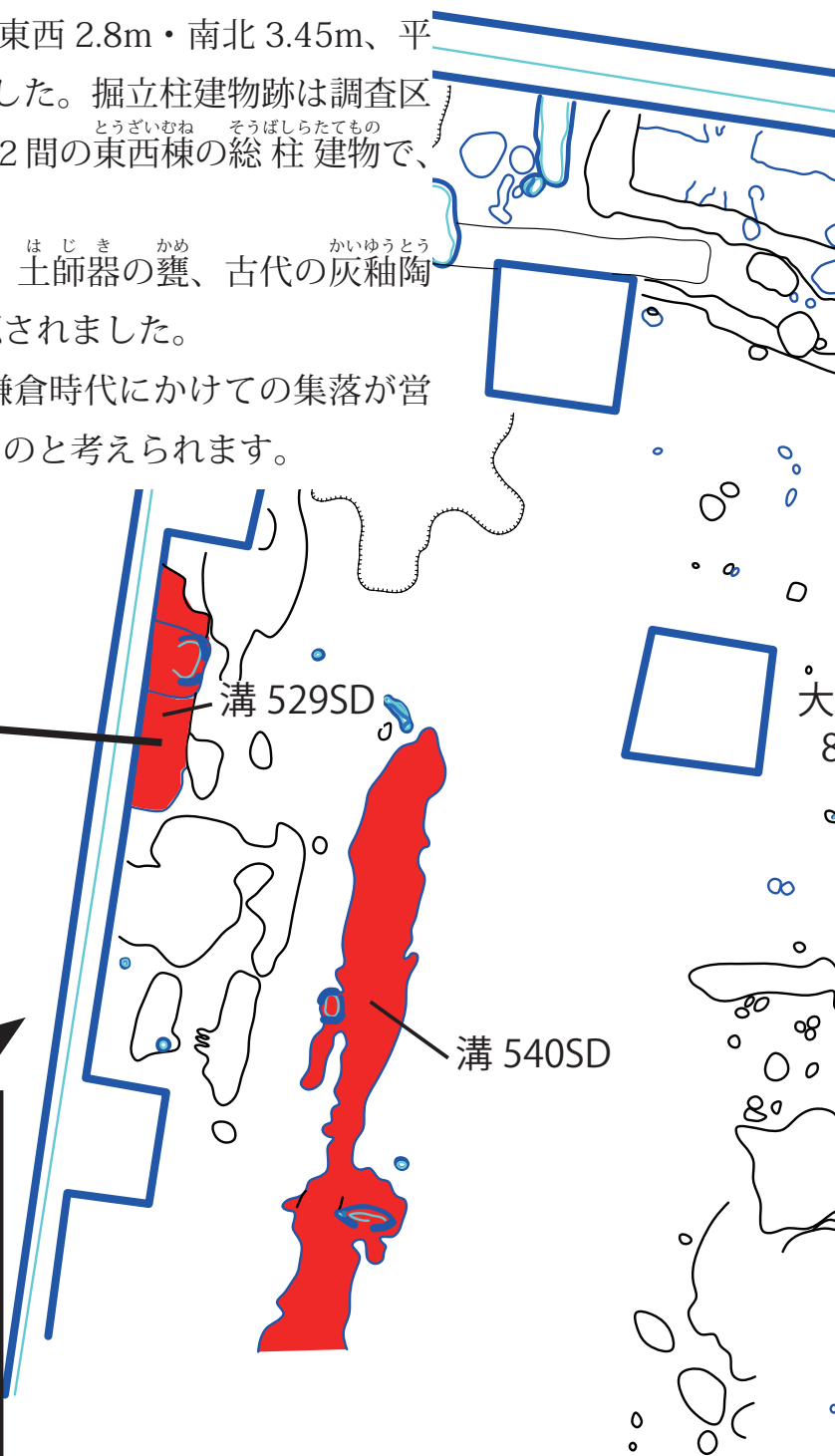
出土遺物は古墳時代の須恵器の^{すえき}坏身・^{つきみ}坏蓋、土師器の^{つきぶた}甕、古代の^{はじき}灰釉陶^{かめ}器や鎌倉時代の^{かいゆうとう}小皿や^き山茶碗の破片が多数確認されました。

以上により 23Ba 区では古墳時代後期から鎌倉時代にかけての集落が営まれ、中世には集落の周囲を溝で囲っていたものと考えられます。



溝 529SD 土層断面状況 (東より)
溝としていますが、井戸の可能性もあります。

青山神明遺跡 全体図



0